第2章

調査概要

2-1　調査目的
2-2　調査方法
2-3　調査項目
2-4　調査対象地域の概要

本調査は、平成10年8月末集中豪雨災害の発生から約10日後に、福島県郡山市における避難勧告・指示の対象地域のうち2,000世帯を対象に実施したものである。ここでは、この調査の目的、実施方法、調査内容、調査対象地域の概要を示す。

調査対象地域は、61.8.5水害においても被害を受けた地域が多くを占めている。今回の水害における住民の避難行動や災害意識の実態などの集計・分析を行うにあたっては、今回の水害における被害状況だけでなく、61.8.5水害時の浸水被害履歴は大きな影響を及ぼすものと考えられるため、2-4 において、調査対象地域を６つに分けたブロック毎に、今回の水害における浸水被害、61.8.5水害時の浸水被害履歴、ならびに郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深などの概要を整理して示している。

２－１　調査目的

平成１０年８月末の集中豪雨により発生した今回の水害は、福島県郡山市においては、幸いにも堤防からの越流や破堤は免れたが、阿武隈川の水位上昇に伴う水門の閉鎖により各地域で多く世帯が内水被害を被った．また、阿武隈川の水位上昇に伴って、流域の54町内会１万1148世帯という広範囲にわたり２度の避難勧告・指示が発令されているが、大きな混乱もなく住民避難は比較的スムーズに行われている。その背景には、昭和61年の集中豪雨による大規模な被害経験を教訓に，郡山市では、防災行政無線システムを整備し災害情報の円滑な伝達の体制整備を図るとともに，平成１０年１月には郡山市洪水ハザードマップを作成・公表するなど、積極的な防災対策の充実化が図られていたことが大きな効果を発揮したものと考えられる。特に、洪水ハザードマップに関しては、実際の水害時に活用された全国でも数少ない事例として、その効果が注目されるところである。

本調査の目的は、今回のこのような水害において、郡山市民が受けた被害の実態、避難行動の実態、避難勧告・指示の伝達状況などを把握すると同時に、平成１０年１月に住民へ公表されている郡山市洪水ハザードマップの利用状況とその評価、そして、それによってもたらされた実際の避難行動などへの影響を調査・分析することである。

２－２　調査方法

本調査は，福島県郡山市において、今回の水害で避難勧告や避難指示が出された地域の住民2,000世帯に対するアンケートによって実施した。実施要領は以下の通りである。

調査対象地域	：	福島県郡山市の内、今回の水害で避難勧告・指示の発令対象地域の一部（2-4.参照）
調査票配布	：	平成10年９月11日 一部地域（Ｂブロック：食品工業団地周辺）は９月22日
調査票回収期間	：	平成10年９月30日まで
調査票配布数	：	2,000
調査方法	：	訪問配布、郵送回収
回収数	：	747（37.4%）

２－３　調査項目

本調査票の質問項目の概要は以下に示すとおりである。なお、質問項目の詳細については、付録に調査票を付してあるので、それを参照されたい。

１）今回の水害における被害
　被害の有無
　被害内容（浸水被害、家屋破損被害、家財等の被害）
２）今回の水害発生の予想
３）今回の水害における避難行動、避難所について
　実際に指示された避難所
　避難所の指定についての評価
　避難所生活について
　避難勧告・指示発令時における破堤や越流に対する危機感
　避難勧告・指示発令時において避難の必要性を感じたか否か
　避難の有無
　避難行動形態（世帯全員、一部、避難しない）
　避難先
　避難行動中における危険の有無
　避難の前に行った浸水対策
　避難しなかった理由
　世帯人数
　世帯構成員の性別、年齢
　世帯構成員毎の避難行動の実態（避難期間、避難先、避難手段）
４）今回の水害における情報伝達の状況について
　避難勧告・指示の入手時期とその入手手段（１度目と２度目の発令と解除について）
　避難所における情報ニーズと入手状況、入手手段
　電話による情報伝達状況
　口頭による情報伝達状況
５）回答者の郡山市洪水ハザードマップの活用実態
　今回の水害における洪水ハザードマップの利用とその評価
　洪水ハザードマップに示される避難所の指定と実際に指示された避難所との一致状況
　洪水ハザードマップの内容評価
６）世帯属性
　生年、居住地、町内会名、居住歴、住居形式、職業、未就学児人数、高齢者人数、
　昭和61年水害における被害の有無

２－４　調査対象地域の概要

本調査では、福島県郡山市において、今回の水害で避難勧告・避難指示が発令された地域のうち、図に示すような地域を調査対象地域として選定した。図中には、回答から判別不能なものも含め、その地域別に１～47の番号を付してある。分析では、この１～47の地域固有番号を用いることもあるが、これらをＡ～Ｆの６ブロックに統合したものを主に用いることとする。

Ａ～Ｆの６つの各ブロックについて、簡単な地域の特徴と回収数を以下に示す。

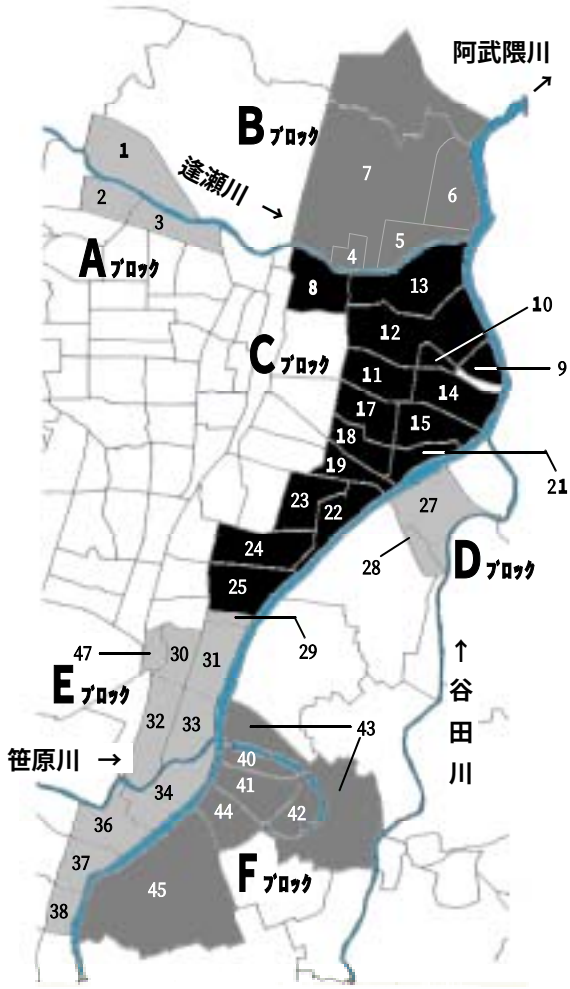

図２－１　調査対象地域

表２－１　調査対象地域

ブロック	地区番号	地区名
A	1	冨久山町久保田A
A	2	桜木町（一）
A	3	若葉町
B	4	冨久山町久保田Ｂ１
B	5	冨久山町久保田Ｂ２
B	6	冨久山町久保田Ｂ３
B	7	冨久山町久保田Ｂ４
C	8	向河原町
C	9	佐野良
C	10	北畑・古屋敷
C	11	横塚（一）
C	12	横塚（二）
C	13	横塚（三）
C	14	横塚（五）
C	15	横塚（六）
C	16	横塚（？）
C	17	芳賀（一）
C	18	芳賀（二）
C	19	芳賀（三）
C	20	芳賀（？）
C	21	石淵町
C	22	古川
C	23	昭和（二）
C	24	小原田（二）
C	25	小原田（三）
C	26	小原田（？）
D	27	水門町
D	28	十貫河原
E	29	八木橋・八作内
E	30	安積町日出山（一）
E	31	安積町日出山（二）
E	32	安積町日出山（三）
E	33	安積町日出山（四）
E	34	安積町日出山　南台・旧屋敷・新鍬
	35	安積町日出山（？）
E	36	笹川（一）
E	37	笹川（二）
E	38	笹川（三）
E	39	笹川（？）
F	40	安積町日出山　神明下
F	41	安積町日出山　一本松
F	42	安積町日出山　大洲河原
F	43	田村町金屋
F	44	田村町徳定　下河原
F	45	田村町徳定（下河原を除く）
E	47	深田台
	46	その他

【Ａブロック】　　回収数： 54世帯（ 7.2%）
若葉町、桜木一丁目、冨久山町久保田の一部を含む逢瀬川流域。
郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「0.5m～1.0m」「2.0m～5.0m」の地域が多くを占めている。今回の水害、61.8.5水害の両水害において、浸水被害は生じていない。

【Ｂブロック】　　回収数： 97世帯（13.0%）
冨久山町久保田（食品工業団地周辺）。郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「2.0m～5.0m」「5.0m以上」の地域が多くを占めている。今回の水害、61.8.5水害の両水害において、甚大な浸水被害を被っている。61.8.5水害では、逢瀬川と阿武隈川の合流点付近が破堤したため、深いところで3.0m以上浸水している。その後、堤防の漏水対策などの補強工事が行われ、今回の水害では破堤は免れたものの、やはり漏水が著しく、また、各箇所の水門・樋門が閉鎖されたため、内水による浸水被害が甚大だった地域である。床上まで浸水した新築の分譲住宅が多く存在しており、住民の不満はことのほか大きい。このような地域の事情を考慮して、このブロックの調査票配布は22日にずらして実施している。なお、Ｂブロックに関しては、返信用封筒に印を付して、今回の水害で浸水被害があった地域と浸水被害の無かった地域を区分出来るようにしてある。

【Ｃブロック】　　回収数：174世帯（23.3%）
逢瀬川合流地点より上流の阿武隈川左岸の地域。
郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「2.0m～5.0m」の地域が多くを占めるが、中には「0m」の地域も含まれる。逢瀬川合流地点に近い一部地域および南部の一部地域において、今回の水害で浸水被害が生じている。しかし、多くの地域は両水害において浸水被害は生じていない。

【Ｄブロック】　　回収数： 95世帯（12.7%）
阿武隈川と谷田川に挟まれた地域。水門町周辺。今回の避難勧告・指示は、「中央工業団地周辺」という形で発令されている。
郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「2.0m～5.0m」「5.0m以上」の地域が多くを占める。61.8.5水害では、谷田川が破堤したため、甚大な浸水被害を被っているが、今回の水害においては排水ポンプが極めて有効に機能し、浸水被害は全く生じていない。

【Ｅブロック】　　回収数：106世帯（13.7%）
笹原川合流点付近の阿武隈川左岸。安積町日出山１～４丁目、笹川１～３丁目などが含まれる。郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「1.0m～2.0m」「2.0m～5.0m」の地域が多くを占める。61.8.5水害では、谷田川合流点より下流の比較的広範囲で内水による浸水被害が生じている。今回の水害においても、谷田川合流点付近とそれより下流の地域で内水被害が生じている。

【Ｆブロック】　　回収数：179世帯（23.8%）

笹原川合流点付近の阿武隈川右岸。馬蹄形の古川池周辺。田村町徳定などが含まれる。郡山市洪水ハザードマップに示される予想浸水深「2.0m～5.0m」の地域が多くを占める。61.8.5水害では、多くの地域が浸水被害を免れている。今回の水害においては、古川池の周辺地域で浸水被害が生じている。

【地区判別不能】　回収数： 22世帯（ 3.6%）

【地区名無回答】　回収数： 20世帯（ 2.7%）